

カワセミの雛



2014年6月9日（月）午後5時50分。放課後の生物室に刑部先生がやってきた。中学のテニス部の生徒が、校庭に積んであった**砂山**を崩している時、砂山の中に**鳥の巣**があるのを見つけたというのである。砂山の中に巣を作る鳥の話など、今まで聞いたことがない。急いで見に行ってみた。

すると、確かに砂山の中に鳥の巣と雛の姿がある。数えてみると、全部で**7羽**。雛はそれぞれ10cm程度の大きさだ。体全体が**青みがかって**いて、**くちばしは黒くて長い**。頭のとっぺんには**白い斑点**がある。また、テニス部員の話では、砂山には以前から小さな穴が開いていて、何の穴だろうと思っていたそうだ。おそらく、この親鳥が掘った穴で巣まで続いていたのであろう。その長さは砂山の形から推測すると、1mくらいはあったかもしれない。

「**ヒヨドリ**の雛ではないか」というのが、阿部先生の説で、自分もおそらくそうだろうと思っていた。念のため、「**日本野鳥の会栃木県支部**」の知り合いに写真を添付し、メールで問い合わせしてみると、驚くべき答えが返ってきた。以下、メールの全文である。

「興味深い写真をありがとうございます。
砂山の上の方ならまだしも、砂山の中の巣なんて…と思いビックリしました。**カワセミ**だと思います。写真を見て**興奮**してしまいました。土壁に横穴をあけて巣を作るので、砂山でもしっかりしていれば作れるのではないのでしょうか。嘴の黒さと、喉の白さなどカワセミのヒナのように見えます。足が見えれば確実にわかりそうです。」

何と、カワセミが校庭の砂山に営巣し、雛を育てていたのである。



発見した中学テニス部の生徒達